

インドネシアでビジネスをするメリット

中川 智明

今回は、「そもそもインドネシアでビジネスをするメリットはなんなのか？」という点について、コメントしてみたいと思います。私などはインドネシアで働き始めて既に7年になるので、このような視点自体がなくなりつつあったのですが、日本の皆様には重要なポイントであると思い、考えてみました。以下3点ほど、インドネシアでビジネスをするメリットを列挙してみます。

<メリット1：親日国家である>

インドネシアは、300年以上占領されていたオランダからの独立を結果的に日本が協力したという経緯があり、そういったことが、インドネシア人が日本人に対して良い印象を持っている一つの要因かもしれません。

私が聞いた話では、インドネシアの義務教育の中で「日本が独立を助けてくれた」と教えられるようです。これが、インドネシアが親日国家であることの根拠の一つです。他の国と比較した訳ではないのですが、おそらく親日国家であるために、日本人の私が経営する弊社でも優秀なインドネシア人が働いてくれる、私の言葉を聞いてくれる、という良い環境にいるのだと思うことがあります。

もう一つの根拠としては、訪日インドネシア人の数が2012年に101,460人であったものが2018年には4倍近い396,852人であることも、インドネシア人が日本に対して興味を持ってきていることの根拠となると思われます。

<メリット2：日本の自動車メーカー・日本の技術への信頼感がある>

インドネシアは日本車のシェアが98%近いといわれており、日本よりも日本車のシェアが高い国です。これは、自国に自動車メーカーが存在せず、外資誘致により多くの日系自動車メーカーが進出したことによります。日本メーカーの自動車は耐久性が高い、燃費が良いなど、技術力への評価と信頼が高く、このことが、日本の製造業全般ひいては日本人への信頼につながっています。

また、日本の会社ではないのに、日本の有名店舗に似せたデザインや名前を使っている店舗が多いことから、日本の技術への憧憬、信頼感が高いことがうかがえると思われま

<メリット3：経済発展が著しい>

人口2億5,000万人を抱える世界第4位のインドネシアは、平均年齢がまだ29歳(日本は45歳)と非常に若く、今後30年は人口ボーナス期が続くといわれ、経済的には毎年GDPが6%ほど成長しています。日本の高度成長期のように、インフラ開発や高層ビル開発が盛んで中流階級の人々の生活水準がどんどん向上しています。



【ジャカルタの高層ビルとその背後に建設中のビル】



【中流階級の方も来るショッピングモール】

特に、Eコマースのような市場の拡大は顕著で、2018年の270億ドル(約2兆9,600億円)から、2025年までに3倍の1,000億ドルになるなどと言われております。

このように、市場の成長性があることは、ビジネスの上でとても魅力的です。

皆様にも是非、このメリットをご理解いただき、インドネシア進出の参考としていただければ幸いです。